

平成27年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業「年間指導報告」

1. 指導目的・目標 (指導対象(学年, 学科, 科目, 部活動, 同好会等)により目的・目標が異なる場合は, それぞれ明記してください。)(当初の目的・目標から変更した点があれば, それらが分かるように明記してください。)						
平成26年度の取り組みを更に深め, 充実した知財教育の推進を図る。また, アイデア創出の手法や知的財産に関する知識を活かし, 小・中学校とも連携し, 知的財産教育を広める活動を行う。						
2. 対象生徒・学生と実施形態 (学年, 学科, 科目等毎にテーマが異なる場合は, それぞれ明記してください。)						
学年	学 科	科 目 / 形 態	指導教員	対象クラス数	対象生徒数	
1	全学年の	ビジネス基礎	3名	3	74	
2	情報処理科	情報処理・マーケティング	6名	4	124	
3	総合ビジネス科	課題研究・商品開発	6名	3	94	
3. 指導内容の概略 (指導対象(活動した学年, 学科, 科目, 部活動, 同好会等)で内容が異なる場合は, それぞれ明記してください。実際に行なった指導についてのみ明記してください。様式2「学期指導計画書」の指導Noを記載してください。活動経費を使用して取り組んだ事項は漏れなく記載してください。)						
段階	主 な 指 導 内 容 (校外活動の場合は活動場所を付記)		指導対象	生徒数	時間数	指導No
計画 (導入)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年までの取組を把握 ・ 知的財産権についての学習 ・ 今年度の目標を立てる ・ 生徒研究発表に向けての準備 ・ 商品開発のイメージを紙に書いたり, イラストにしたりする。 ・ 協力してくれる企業との連絡調整 ・ 関連書籍の購入 		3年生	13	6	①
			全学年	292	2	②
			3年生	22	6	②
			3年生	13	24	②
			2年生	65	2	③
			3年生	13	8	③
			全学年	294	各	②
実施 (展開)	<p>○ドレッシングについては, 企業の方に試作品を作っていただき, 試食を繰り返す中で, ターゲットをどこに絞るかで味が違ってくる事を学ぶ。最終的には老若男女食べてもらえるよう, 辛さを抑えた商品に仕上がった。</p> <p>○ドレッシングのラベル作成については, 鹿児島県の公式キャラクターである「ぐりぶー」は著作権があり, 使用については届出制であることを知り, ラベルに使用することができた。</p> <p>○ドレッシングのお披露目という形で, 昼食時間にサラダを配り, 全校生徒・職員に試食してもらい, アンケートを実施した。配る際には, ラベルに使用している「ぐりぶー」と「さくら」の着ぐるみを登場させ, 商品開発の経緯を生徒が説明した。南日本新聞に掲載される。</p> <p>○LINEスタンプについては, 簿記をもっと身近な存在にしたいという思いから, スタンプにしようということとなり, キャラクターの設定から生徒と考えていった。フリーソフトを使いスタンプの規定に合う形でデザインし, 審査してもらった。</p> <p>○個人のアカウントで作成したため, 引き継ぎがうまくいかない状況である。別の回線のポケットWiFiとタブレットをレンタルし, 学校のアカウントを取得し再度申請していく。(課題)</p> <p>○LINEスタンプのキャラクターであるボキレンジャーを使ったカルタを作成し, 簿記について遊びながら覚えられるようにする。試作品を印刷会社に依頼したところ, 通常は1,000単位での受注であり, 少数の場合別工程で単価が高くなるということから, 手作りで対応する。</p> <p>○タルトについては, 昨年度に引き続きスモモさんに協力をいただき, 串商(串良商業高校の略)を分解した中中商い「なかなかあきない」シリーズの新たなタルトを開発し販売までを下記の流れで実施した。</p> <p>新たな案を企画→プレゼン→製造体験→試食をして検討→販売パッケージデザインも従来のものから変更した。キャラクター自体</p>		3年生	22	20	⑥
			3年生	3	70	⑥
			3年生	6	30	⑥

	<p>はそのままにデザインの一新と金額等を新たにいった形に変更した。</p> <p>○地域別交流・研究協議会（霧島市商工会議所）</p> <p>○知的財産権講演会出席（国分中央高校）</p> <p>○知的財産権講演会出席（川内商工高校）</p> <p>○先進校視察（佐賀県立有田工業高校）</p> <p>○知的財産権の講演会においては、「たるみず畑」というブランドを立ち上げ、事業を展開している株式会社竹ノ内組の竹ノ内敬子さんに講演を依頼した。商品開発と知的財産権について、本校職員と質問形式で話を進めてもらい、商品に対する思い、ブランディングについて、商標登録をする上で苦労した点などを話していただいた。</p>	<p>職員 2</p> <p>職員 2</p> <p>職員 1</p> <p>職員 2</p> <p>全校生徒 292</p>	<p>2</p> <p>2</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>292</p>	<p>1</p>	<p>⑤</p> <p>⑤</p> <p>⑤</p> <p>⑤</p> <p>⑥</p>
まとめ (整理)	<p>活動の記録を整理し、次年度へ引き継ぐ準備をする。</p> <p>知的財産権については、日常生活、普通の授業の中にあるものの、意識的にとらえないと見過ごしてしまいがちである。ちょっとしたことに気付く、疑問を持つということが知的財産権を守る第1歩。これからも能動的に活動していくことで定着を図りたい。</p>	3年生	22	6	⑦

4. 指導内容及び成果 (実際に行なった指導についてご記入ください。指導対象(活動した学年, 学科, 科目, 部活動, 同好会等)で内容が異なる場合は, それぞれ明記してください。)

1) 全般

1-1) 知的財産権制度に関する知識・実務を修得させるにあたっての着眼点は？ どこに重きを置いて指導しましたか？

商品開発をする際、商品名を考えると、商標権があるかを検索して調べ、重ならないよう気を付ける。

1-2) 指導計画どおりに進捗しましたか？ 指導の目標は達成されましたか？ 具体的にご記入ください。

(当初計画からの見直しがあった場合、「見直した理由」と「進捗・達成度」を記入して下さい。)

年度当初の役割分担、確認が不十分だったため、すべてが後手に回ってしまい、前半に計画していたことがうまくできなかった。年間を通して活動できるように来年度はこまめに連絡を取り合って進めていきたい。夏休みの地域別交流会に生徒を連れて行くことができなかったのが悔やまれる。

1-3) 知的財産学習についての生徒の反応・理解度はどうでしたか？ (アンケート等の定量的把握を行なった場合は、その結果もご記入ください)

情報処理等の授業で情報モラルについてはある程度理解している。特に個人情報・肖像権については日頃から注意を促しているため生徒自身も気を付けている。知的財産権を守ることの必要性は感じているが普段利用する立場の時にはそれほど意識していないように思う。

2) 指導方法で工夫した点・改善した点

2-1) 知的財産権の指導をどのように行いましたか？ (工夫・改善した点を中心にご記入ください。)

項目	内容	
座学 (セミナー・講演会を含む)	a) 内容(知財との関連付け)	商標登録した話
	b) 成果	登録証を実際に見ることで印象付けることができた
	c) 成果を収めた理由	アンケートの感想で商標登録の苦労話に触れていた
	d) 苦心した点	講師依頼の際、商品開発をした話はできても商標登録の話をとると少しやりづらそうであったが質問形式でとお願いしたら引き受けてくれた。
	e) 改善が必要と思われる点	弁理士ともっと連絡を取り合いアドバイスをもらう
実習	a) 内容(知財との関連付け)	商品名を考える。LINE スタンプデザインを登録する。
	b) 成果	商標権の検索を方法を学ばせることができた。
	c) 成果を収めた理由	プラットフォームの存在を知るきっかけとなった。
	d) 苦心した点	検索の仕方。どの単語で検索するか
	e) 改善が必要と思われる点	検索の結果どれがセーフでどれアウトなのか判断が難しいので弁理士との連携が必要。

3)校内における指導支援体制

3-1)学校全体として、どのような支援体制が組まれていますか？

知的財産担当教員数（合計）	6名	
知的財産委員会	設置年	平成26年度
	現在委員数	19名
	（内、管理職数）	3名
開催形式・開催状況	教科会で連絡する程度で委員会としては機能できなかった。	
支援内容	必要に応じて連絡を取り合っていた。	
支援体制の効果等	しっかりと話し合いを持てなかったため全体把握が不十分だった。	
教員・教官の研修	他校での講演会出席・先進校視察	
前年度の調査報告書（他校による報告も含む）の有効活用		

4)年間行事

4-1)学校の年間行事に、知的財産に関連するものがありましたか？実施した行事名称およびその内容をご記入ください。

- ・行事名称：平成27年度「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業に関する講演会」
- ・内 容：「商品開発とそれに伴う知的財産について」
- ・行事名称：いじめ統一LHR講演会
- ・内 容：「インターネットを使うときに気をつけること、考えること」
情報モラル・コミュニケーションギャップについて学ぶ

5. 今後の課題（活動した学年、学科、科目等で内容が異なる場合は、それぞれ明記してください。）

- 1)今年度の目標や指導方法を実施して、今後考慮していきたい点がありましたらご記入下さい。
 - 弁理士と早くから連絡を取り、4月中に講演会の日程を検討する。
 - 校内パテントコンテストを実施し、全校生徒で取り組む。
- 2)本事業における取組を展開するにあたり、指導方法、学校における支援体制等、考慮すべき点があれば、具体的にご記入ください。
 - 4月に委員会を開き、年間計画、役割分担を明確にし全職員が共通理解のもと、各教科・科目で取り組めるようにする。
 - 校内での連絡会、報告会をして共通理解を図る。
 - ロードマップを活用し計画的に活動していく。
- 3)その他(自由記載)

6. 使用した教材（特に効果の高かった教材等の紹介をしてください。図表等を使用の場合は別紙として添付して下さい。）

産業財産権標準テキスト
教科書（商品開発・経済活動と法・情報処理・ビジネス情報・マーケティング）

7. まとめ（直接指導にあたった教員として、指導活動と成果に対する率直な意見や感想をご記入ください。）

通常の業務（授業・校務分掌・学校行事）に追われ、委員会として活動する事が困難だった。係をして初めて気付くことが多かったため、今年度の反省を活かして来年度継続して知的財産権教育の推進に取り組んでいきたい。また、知的財産教育については学年に応じて、毎年基礎から繰り返し学習することが大事であることを学んだ。

報告作成日	平成28年1月8日
担当教員	教諭 吉福 知明

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

平成 27 年度
「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事
業」

実践事例報告書

(年間指導報告書の要約書)

1) 自身の学校番号(例「農01」)、学校情報、ねらい・関連法(該当するものすべてに太青丸○印)、タイトル(目的・目標の要約等)、今年度の目的・目標、活動の経過、成果、特記すべき取組、写真(活動風景・作品等)、成果を示す表・グラフ等を掲載してください。

※この報告書は、今年度採択校の皆様配布するほか、INPIT のホームページにも掲載し次年度に採択された学校の教員・教官等に取組の参考としていただくことを目的としています。また、取組すべてを網羅的に記載するのではなく、特記すべき取組、特に成果が出た点、逆に成果が出ず失敗した事例の分析など、読んだ方に参考にしてほしい点にしぼって記載していただいても構いません。

2) 皆様から提出いただいた報告書は、とりまとめて公表いたします。公表する際には、**提出いただいたままの報告書を見開きで掲載**するため、文書・写真・表・グラフ等を含め、**「必ず全体で2ページ以内」と**してください。

また、レイアウトについては、以下の点にご留意下さい。

- ・文字フォントは、MS 明朝 10 ポイント
- ・写真・グラフ等を貼り付けた場合は、報告されている文章との関係が判る様にして下さい。

(例)○○できた。(写真1)

○○の理解力が上がった。(図1もしくはグラフ1等)

なお、ページ最後の「(例)特記すべき取組と成果」は、無ければ記載いただかなくても構いません。

3) **報告書はWordで作成し、メールで提出してください**(PDFでの提出は原則不可)。Wordのファイルサイズは～3MB 程度以内となるよう御協力を御願います。**(写真のファイルサイズを小さくすることで圧縮できます)**。(はり付けてから見た目の大きさを小さくしてもファイルサイズは小さくなりません。)Windowsに元々ついている「ペイント」というソフトを使っても小さくできますので、以下のHP等で方法を確認のうえファイルサイズの縮小に御協力ください。

<http://hamachan.info/windows/peint.html>

<http://windows.microsoft.com/ja-jp/windows7/resize-a-picture-using-paint>

4) 報告書のとりまとめ(ファイルの合体)の際に不都合が出ますので、ページの縦・横・余白の幅の設定は変更しないようお願い致します。

5) 年間指導報告書内容や年次報告会のプレゼンテーション資料から抜粋して、作成いただいても構いません。

【重要】ホームページにそのまま掲載しますので、他者の商標権・著作権・肖像権等各種権利を侵害しないようにご注意ください。左記を確認のうえ「本資料内の写真, イラスト, 引用文献等の承諾が必要なものにつきましては, 権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」の文言を必ず報告書に入れてください。(様式には事前に記載済みです。)

学校番号			
学校名	〇〇県立〇〇〇〇高等学校	担当教員/ 教官名	〇〇 〇〇〇
学校情報	所在地：〇〇〇県〇〇〇〇〇〇〇〇 TEL：0000-00-0000、FAX：0000-00-0000、URL：http://www.xxxxxxxx.ac.jp		

ねらい (〇印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決（創造性開発・課題研究・商品開発等） <input checked="" type="checkbox"/> d) 地域との連携活動 e) 人材育成（学習意欲向上、意識変化等） f) 学校組織・運営体制
関連法（〇印）	<input checked="" type="checkbox"/> a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他（ ）

タイトル <small>目的・目標要約</small>	〇〇〇〇〇〇〇
目的・目標 ・背景	(目的・目標) 〇〇〇〇
	(取組の背景) 〇〇〇〇
活動の経過 <small>(知財との関連)</small>	(例) 〇〇〇〇の活動を行った。(写真 2) (例) 〇〇を行った結果、〇〇に関する生徒の関心度が上がっていくことが実感できた。(表 1)
成果 ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題	

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

平成 27 年度 実践事例報告書

ねらい（該当に項目に○印）	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決（創造性開発・課題研究・商品開発等） d) 地域との連携活動 e) 人材育成（学習意欲向上、意識変化等） f) 学校組織・運営体制
関連法（○印）	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他（ ）

タイトル 目的・目標 概要	L I N Eスタンプ ポキレンジャー (L I N Eスタンプで簿記をもっと身近な存在へ)
目的・目標 ・背景	<p>(目的・目標)</p> <p>L I N Eスタンプを作る。商業高校で最も代表的な科目である簿記をキャラクター化することにより、商業に係わる多くの人に興味・関心を持ってもらう。地元の高校が活動することで、串良の認知度も上がり、地域活性化の一助となればよい。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>簿記って何だろうというところから、もっと簿記に愛着を持ってもらおう。簿記が地球を救ってくれる。という思いから生まれたポキレンジャーを多くの方々に知ってもらいたい。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>L I N Eスタンプを作るには審査が必要で、それをクリアすることによって知的財産権を学ぶことができる。</p> <p>1. 企画内容</p> <p>(1) 内容・3年選択 「商品開発」でL I N Eスタンプを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業高校生が考えるスタンプをみんなに使ってもらう。 ・簿記に係わるキャラクター「ポキレンジャー」で商業にもっと興味・関心を持ってもらう。 <p>(2) 詳細・簿記の5つの要素「資産・負債・資本・収益・費用」を「レッド・ブルー・イエロー・ピンク・グリーン」とし「ポキレンジャー」を結成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターをフリーソフトの「PictBear」で作成。 ・ラインクリエイターに登録しデータをアップロードする。 ・デザインをアップロード→審査→審査合格→リリース <p>2. 企画の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業高校で学ぶ、簿記に対して、少しでも興味・関心を持ってもらう。 ・これまで学習した簿記をわかりやすく伝えることを通じて、これまで学んだ事の整理ができる。 ・地元の高校が活動することが地域活性化に繋がる。 ・ポキレンジャーを全世界に発信し、簿記・商業をP Rする。 ・簿記の知識を身につけることで、より良い生活・工夫ができるようになる。 ・人生設計がしっかりでき、皆が幸せに暮らせる。 ・コピーライトを付けるので、知的財産の学習にもなる。

	<p>3. 確認事項</p> <p>(1) LINEに係わる犯罪が多いことから生徒指導上問題はないかという指摘があったが、商業デザインと簿記について学習を深めることが目的であり、スタンプ開発で、LINEを推奨するものではない。昨今のネットワーク社会において、マナーやモラルやルールをしっかり守るよう指導していく必要がある。</p> <p>(2) 収益の取り扱いをどうするかについては、スタンプ用の銀行口座を作り、収益の中から地域活性化に繋がる活動へ寄付または活用していく。</p>
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・気づき ・反省 ・課題 	<p>現在個人のアカウントを利用している。学校用のアカウントを取り、ポキレンジャーのスタンプ（デザイン）を継続して作成していく予定だが、新しいポキレンジャーを別のアカウントで作成した場合に問題がないかは、審査に出してみないとわからないとの回答。タブレットをレンタルしてアカウント取得予定。</p> <p>今後の展開</p> <p>(1) ポキレンジャーをLINEスタンプで作成したことを発表。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ポキレンジャーというキャラクターを知ってもらい、スタンプを使って身近なものに感じてもらう。簿記への興味関心を増幅させるカンフル剤にと期待している。 ② 次に、ポキレンジャーが簿記について教えてくれる、「簿記カルタ」を作成。5つの取引要素・勘定科目を覚えていく。「簿記カルタ」は発展的な内容をさらに作成する計画。 ③ ホームページ等に掲載してキャラクターの定着化をはかる。 ④ ポキレンジャーの活躍のストーリーを考えていく。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



クリエイターズスタンプ 「ポキレンジャー」で検索 簿記カルタ



会社ごとの期日に従業員に支払う賃金



商品を販売したときの代金を受け取る権利

